

全ての人自分らしく生きていくために

3年生では、「就職差別」の問題を学習しました。今は進学を考えている人たちが多いと思いますが、高校卒業後は就職しようと思っている人もいるでしょう。その時、おそらく「全国統一応募用紙」という用紙を書くことになると思います。その用紙がどのようにできたのかを知る活動から始まりました。



1960年代に使われていた「社用紙」と呼ばれる用紙を書き、一部当時使われていた採用基準を使って自分が採用されるかどうかを確かめました。理不尽な採用基準に「こんな会社に採用されなくてよかった」、「身長が動くことに何か関係があるの?」、「長男でよかった。点数が高い」や「ラッキー点数が高かった」など

くさんの声が聞こえてきました。次に、「社用紙」の質問項目を10個に絞るなら何が必要かを考えました。さっきは憤った項目でも、採用する側になったら採用するために何が必要になるのかと真剣に話し合う様子がありました。



その後、2016年に制定された「部落差別の解消の推進に関する法律」ができるまでの流れを勉強しました。1960年から現在に至るまで差別を解消しようとしてきた動きと、それに反する動きについて学びました。

<50年以上の間、差別を解消しようとしてきた人々。どうしてあきらめずに行動することができたのか。>

- 差別を受けている人がどんな気持ちになるのか、思いをするのか考えて、それを救おうとした人は差別を無くそうという行動ができたんだと思う。もっとリアルに人の気持ちを考えることが差別を無くすのに大切だと思う。
- 「差別をなくしたい」「次の世代の人には差別という事を経験してほしくない」という思いをもっていたからだと思います。
- みんなで助け合ったからあきらめなかったと思う。自分一人じゃすぐにあきらめてしまうけどみんなとだったらとても心強いしすぐにはあきらめようとはしないからだ。
- なくそうという思いが強く願われていたから。
- 同じ気持ちを持つ人がたくさんいたから。「仲間」同士で支えあえたから、あきらめずに頑張ろうと思えたから。
- 自分だったら、差別されることで生きにくい世界を生きるより行動することが大切。仲間たち、周りの人たちが行動できたのは差別をしてはいけないという気持ちが本物だったからできたのかなと思いました。
- なくしたいという気持ちが強いからあきらめずにできたと思います。一人じゃなくていろんな人の力があつたからこそだと思います。



しかし、自分自身が同じ立場であった場合に差別に抗議できるのかという部分に関しては、

- 自分が周りからの圧力であきらめるのが悔しい。
- 部落の地名を知ったりするのは意味がないことで、だれも得をしないと思う。
- 許せないと思うなら抗議しなければならぬから。自分から言いだして抗議しないと許せないと思っただけではない。
- 人をバカにして何が楽しいかが分からない。



と強い気持ちで抗議できるという人たちもいましたが、

- 自分一人だけだと無理だと思うけど、仲間がいるならば抗議できると思う。差別をして何の得があるのかなと思う。

自ら率先して、一人でも抗議するという人の数は少なかったです。大半が勇気を持てなかったり、どうしていいのかが分からなかったりしてあきらめてしまうと答えていました。

しかし、どうすればいいのかが分かったり、仲間がいて心強いという状況があれば差別に立ち向かっていくことができるという思いがみんなの中にあることが分かりました。

差別に立ち向かうことはむずかしいことです。差別される当事者になったり、そうなった人の味方になろうと決心したとき、すごく大きなことをしなければいけないイメージがあるのではないのでしょうか。大変なことをするわけではなく、味方になり気持ちを伝えることや寄り添うことができれば差別に立ち向かうことができるのです。

- 私は、味方になるためには勇気が大切だと思います。なぜなら、勇気がなければびしょという事もできないと思うからです。
- 人を血液型や住んでいる場所で「こういう人」だと決めつけなくて、きちんと人と向き合ってその人のことを知ることが大切だと思います。
- 一人の力で変えることはできないから、少しでも多くの人にわかってもらうことが大事だと思う。おかしいことは「ちがう」と言える強さと勇気が必要。
- 自分が差別をしないこと。身近で見たら注意をしたり、小さいことでも無くそうと努力することが大切だと思う。
- 世界にはいろんな人がいる。そのことを理解して毎日を過ごさないといけない。自分一人で動き出すのは難しくても、いろんな人と協力して動き出せるような人になりたい。
- 私は、味方になるためには差別をすることはとてもくだらないことともうことが大切だと思います。なぜなら、差別をすることは、まずそんなことに頭を使うのは無駄だし、相手の気持ちを考えられないと社会に出られないから、差別をしていることをくだらないと思うことが大事だと思います。
- 少しでも差別がダメだと思っている人を増やすことだと思います。この世の中で、差別のことを何とも思わない人を少数派にしていけばいつか差別はなくなるんじゃないかと思っています。